

## 2-3 安全でおいしい水の安定供給に向けた取組

### (1) 安全でおいしい水の供給に向けた取組の認知度

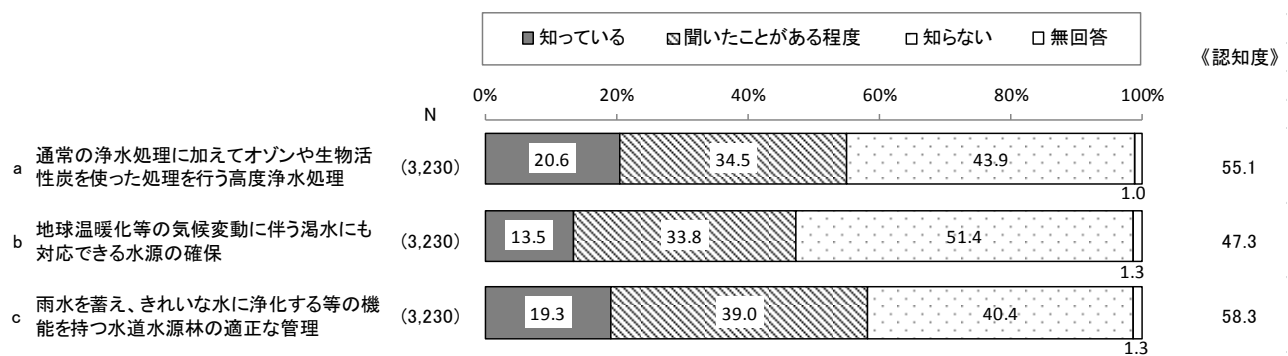
問5 水道局では、安全でおいしい水の供給に向けた様々な取組を行っていますが、以下の取組について、ご存知ですか。

次のa～cについて、「3 知っている」～「1 知らない」の中から**1つ選び**、番号に○をつけてください。

		認知度		
		知っている	聞いたことがある程度	知らない
a～c それぞれ横に回答してください。				
<b>※記入例</b>		<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
a	通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理	3	2	1
b	地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保	3	2	1
c	雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理	3	2	1

### [調査結果]

安全でおいしい水の供給に向けた取組の認知度〈図表2-3-1〉



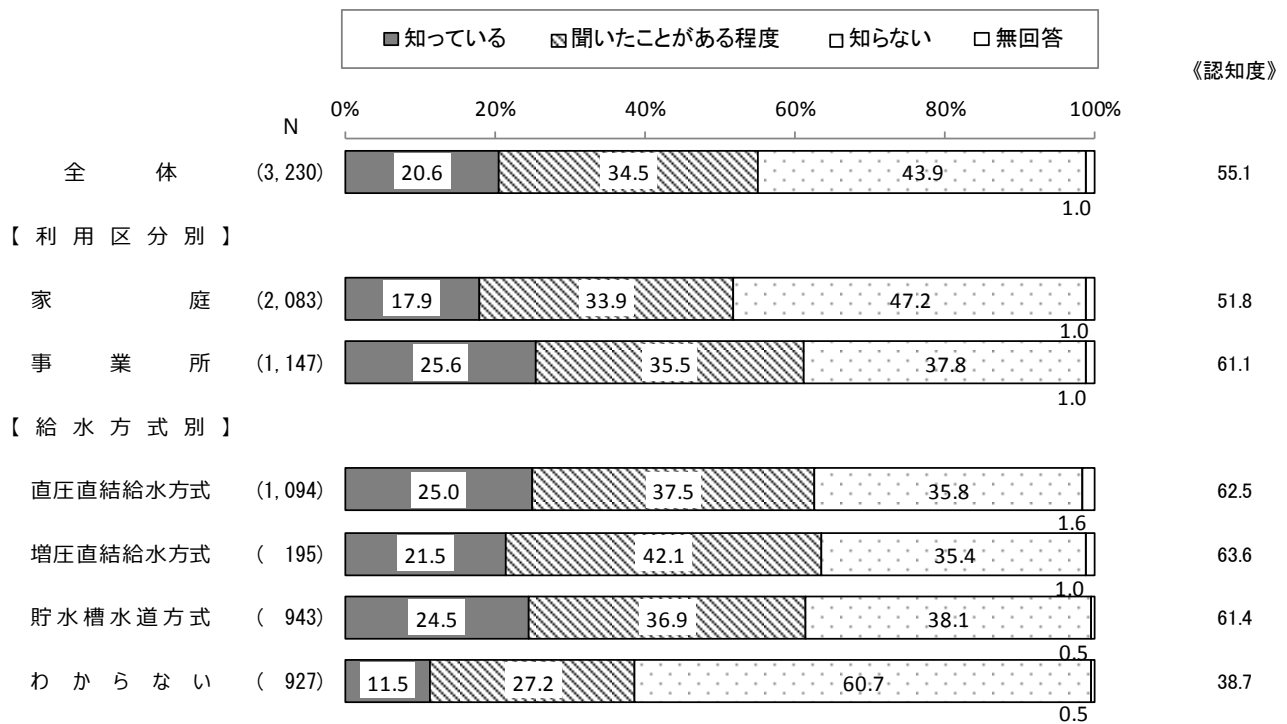
### 〈特徴〉

○《認知度》は、「c 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理」(58.3%)が最も高くなっている。一方、「知らない」は、「b 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保」(51.4%)が最も高くなっている。

i) a 通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理

[調査結果]

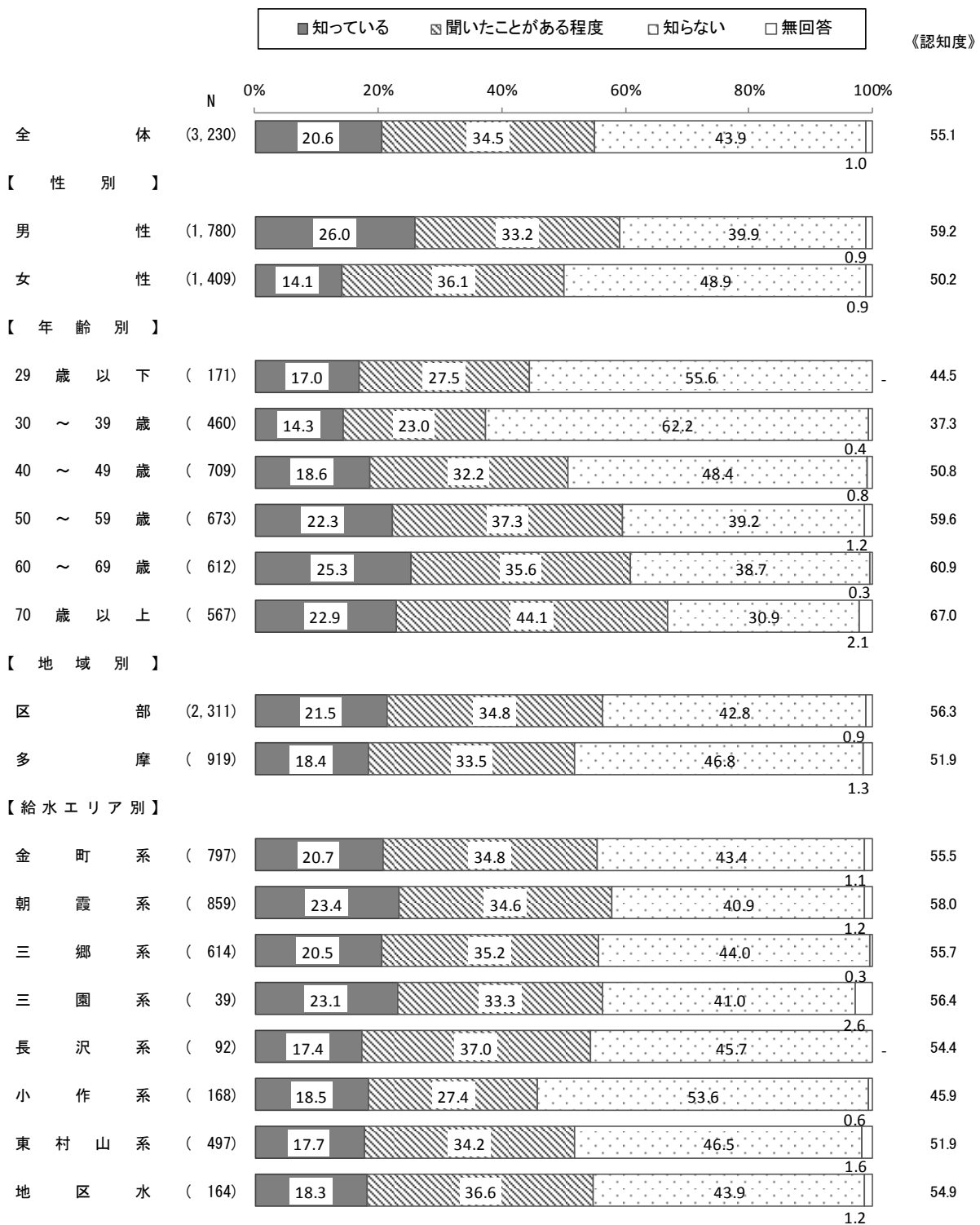
① 「a 通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理」  
 (利用区分別、給水方式別) <図表 2-3-2>



<特徴>

○利用区分別では、《認知度》は、事業所（61.1%）の方が家庭（51.8%）より9.3ポイント高くなっている。

② 「a 通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理」  
 (属性別、給水エリア別) <図表2-3-3>

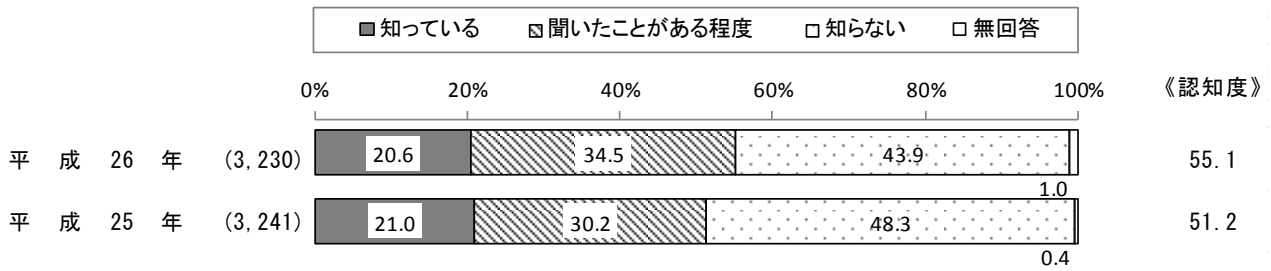


<特徴>

○年齢別では、《認知度》は、30～39歳（37.3%）が最も低く、以降、年齢が上がるにつれ割合も高くなり、70歳以上（67.0%）で最も高くなっている。一方、「知らない」は30～39歳（62.2%）で最も高く、次いで29歳以下（55.6%）となっている。

○給水エリア別では、《認知度》は、朝霞系（58.0%）で最も高く、次いで三園系（56.4%）と続く。ほとんどのエリアで5割を上回る中で、小作系（45.9%）だけは5割を下回った。

③ 「a 通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理」  
 (時系列：全体) <図表 2-3-4>

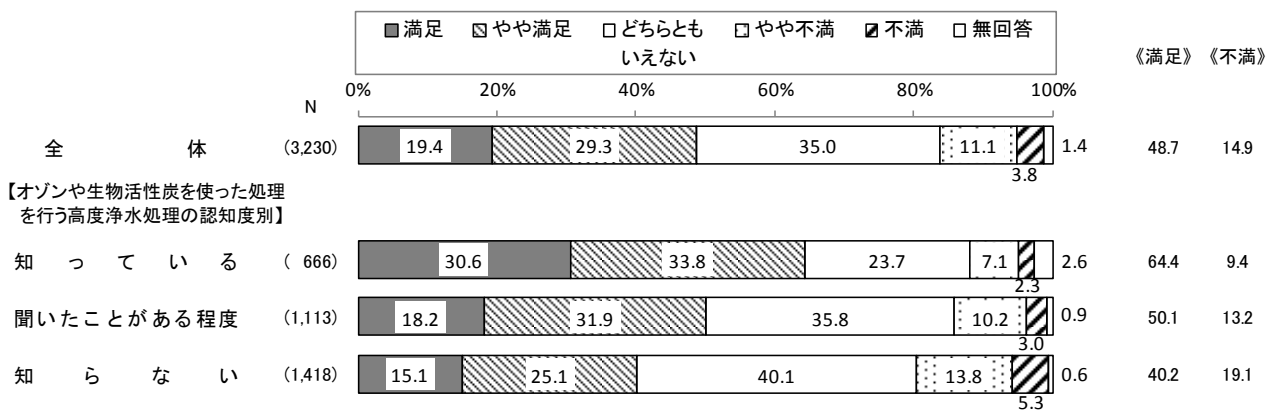


<特徴>

○時系列（全体）でみると、今年度の調査の《認知度》は 55.1%で、平成 25 年度調査（51.2%）を 3.9 ポイント上回っている。

[詳細分析]

通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理の認知度と飲み水としての水質の満足度<図表 2-3-5>



<特徴>

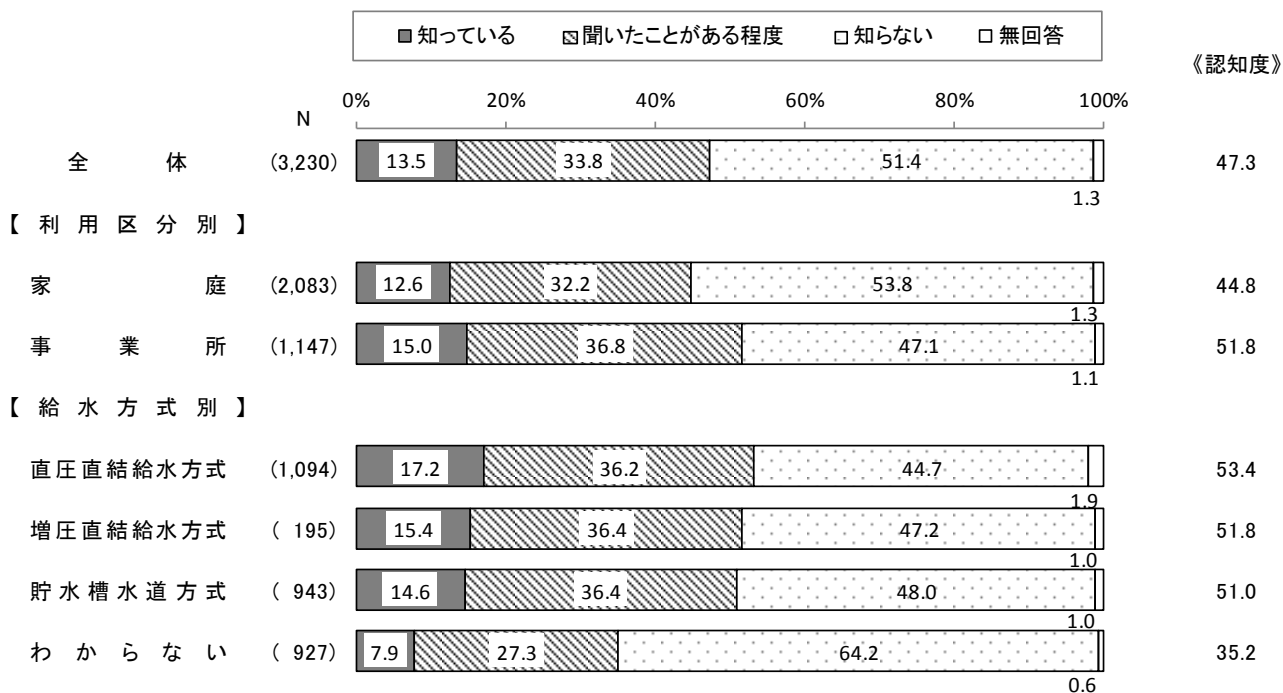
○「飲み水としての水質の満足度」について、「通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理」の認知度別でみると、《満足》は、高度浄水処理を「知っている」と回答した人で64.4%、次いで「聞いたことがある程度」が50.1%、「知らない」が40.2%となっており、高度浄水処理の認知度が高いほど飲み水としての水質の満足度も高くなっている。

ii) b 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保

[調査結果]

① 「b 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保」(利用区分別、給水方式別)

<図表 2-3-6>

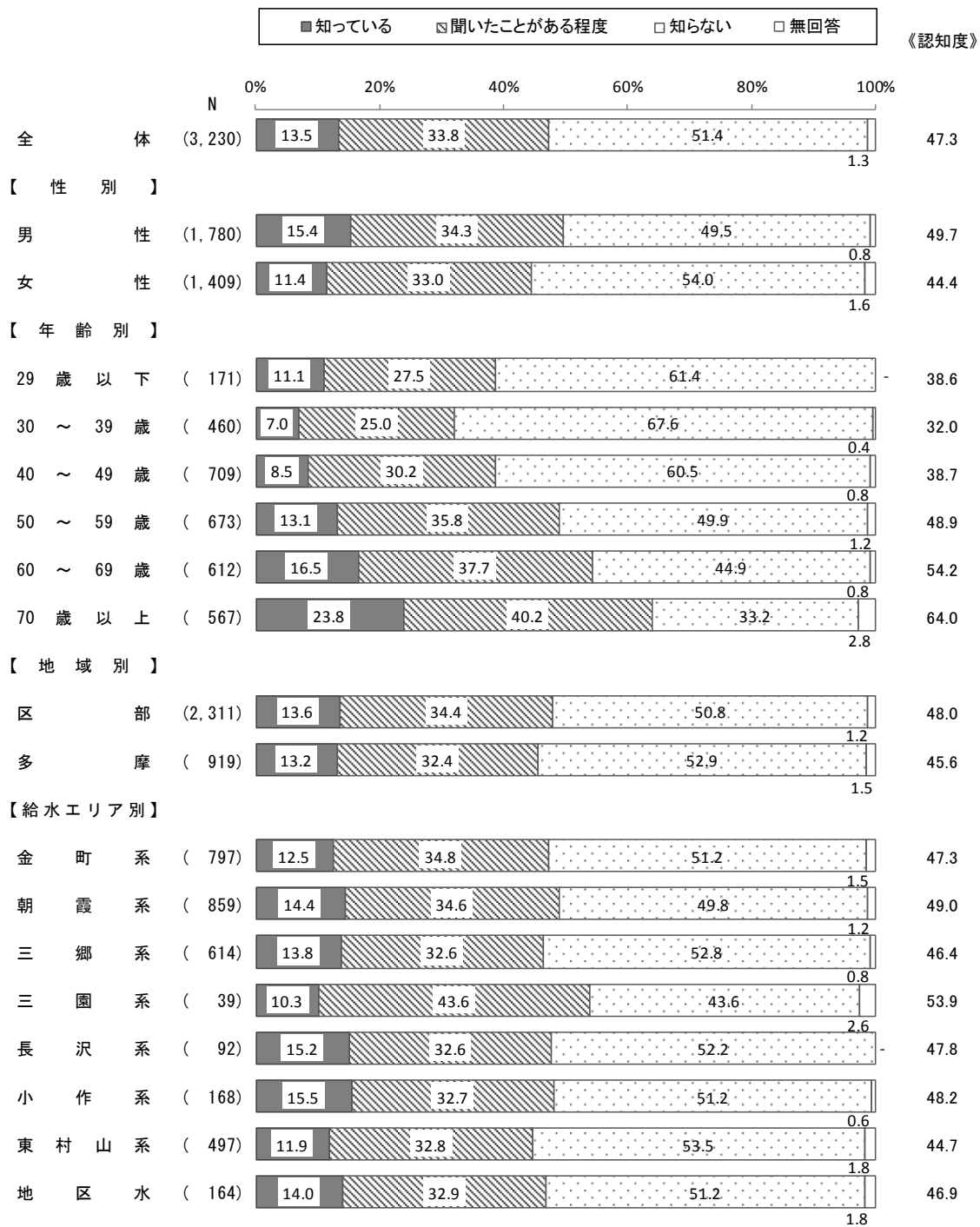


<特徴>

○利用区分別では、《認知度》は、事業所（51.8%）の方が家庭（44.8%）より7.0ポイント高くなっている。

② 「b 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保」(属性別、給水エリア別)

<図表2-3-7>



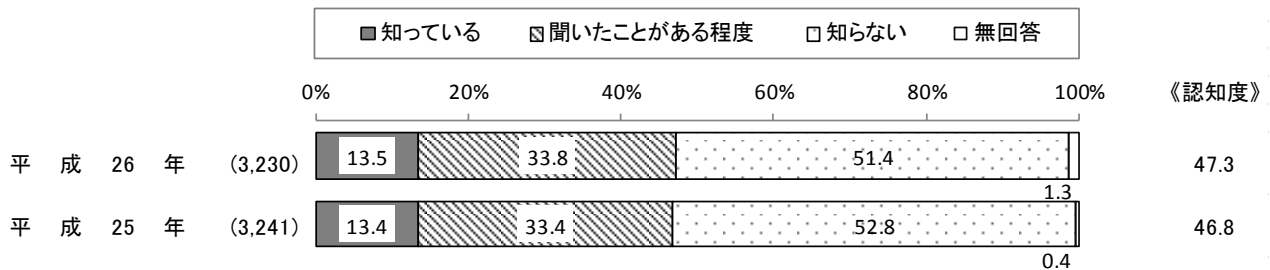
<特徴>

○年齢別では、《認知度》は、30～39歳（32.0%）が最も低く、年齢が上がるにつれ割合も高くなり、70歳以上（64.0%）で最も高くなっている。逆に、「知らない」は、30～39歳（67.6%）が最も高く、29歳以下（61.4%）や40～49歳（60.5%）でも6割以上となっている。

○給水エリア別では、《認知度》は、三園系（53.9%）で唯一5割を超えているが、他のエリアはいずれも5割に届いていない。一方、「知らない」は、東村山系（53.5%）で最も高く、次いで三郷系（52.8%）や長沢系（52.2%）などでも高い。

③ 「b 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保」(時系列：全体)

〈図表2-3-8〉

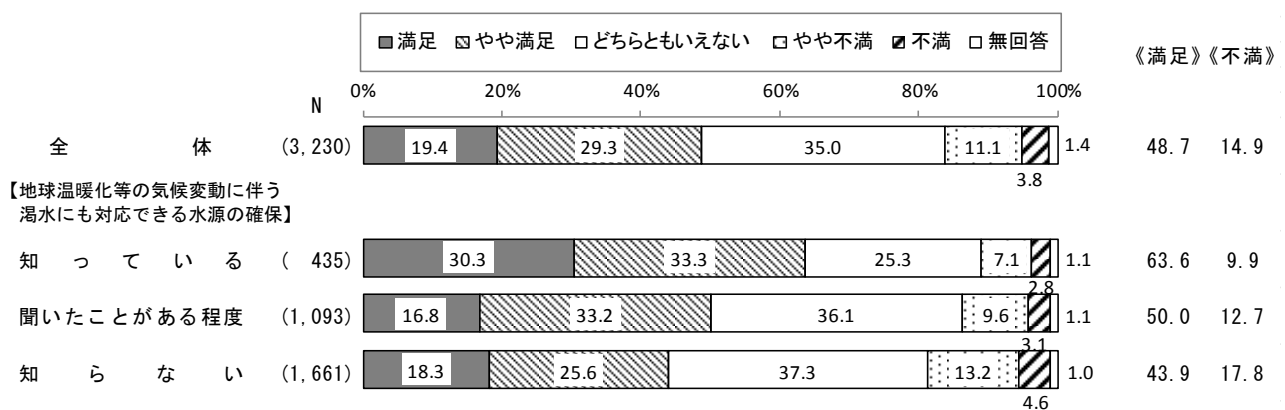


〈特徴〉

○時系列(全体)では、今回調査の《認知度》は47.3%で、平成25年調査とほぼ同レベルである。

[詳細分析]

地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保の認知度と飲み水としての水質の満足度〈図表2-3-9〉



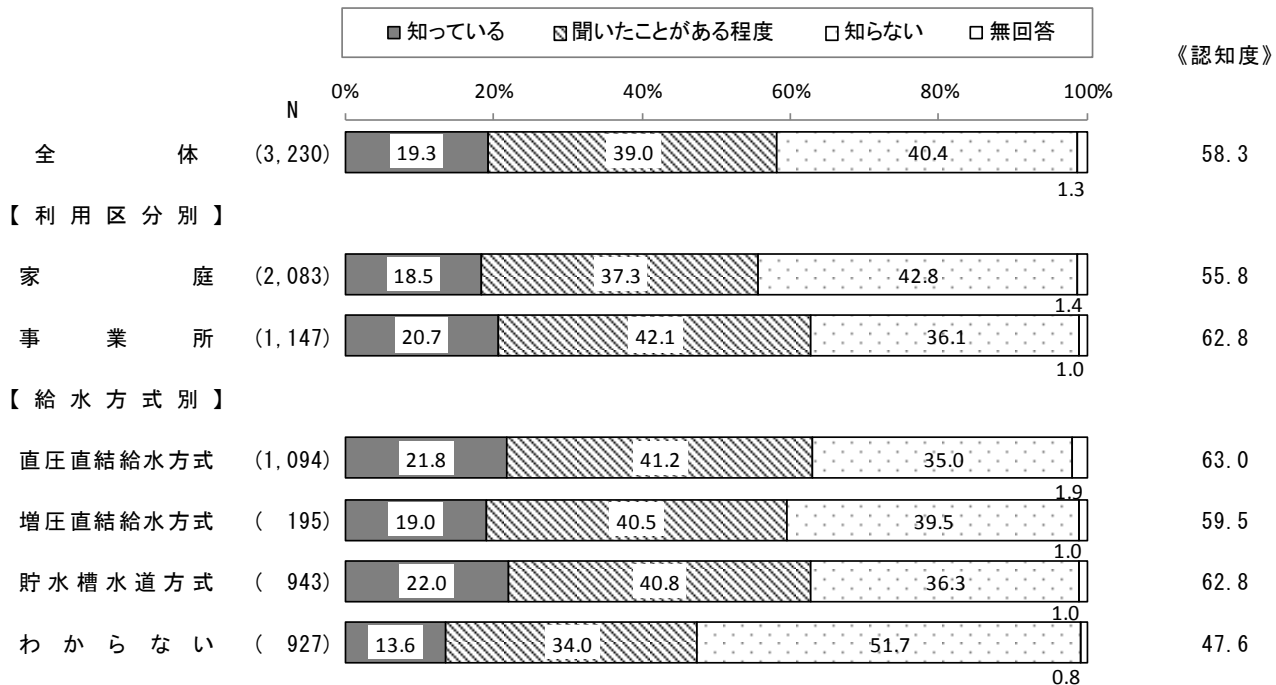
〈特徴〉

○「地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保」の認知度別では、「知っている」が63.6%と、「聞いたことがある程度」(50.0%)や「知らない」(43.9%)を上回り、取組への認知度が高くなればなるほど、飲み水としての水質の満足度も高くなる。

iii) c 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理

[調査結果]

① 「c 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理」(利用区分別、給水方式別) <図表2-3-10>

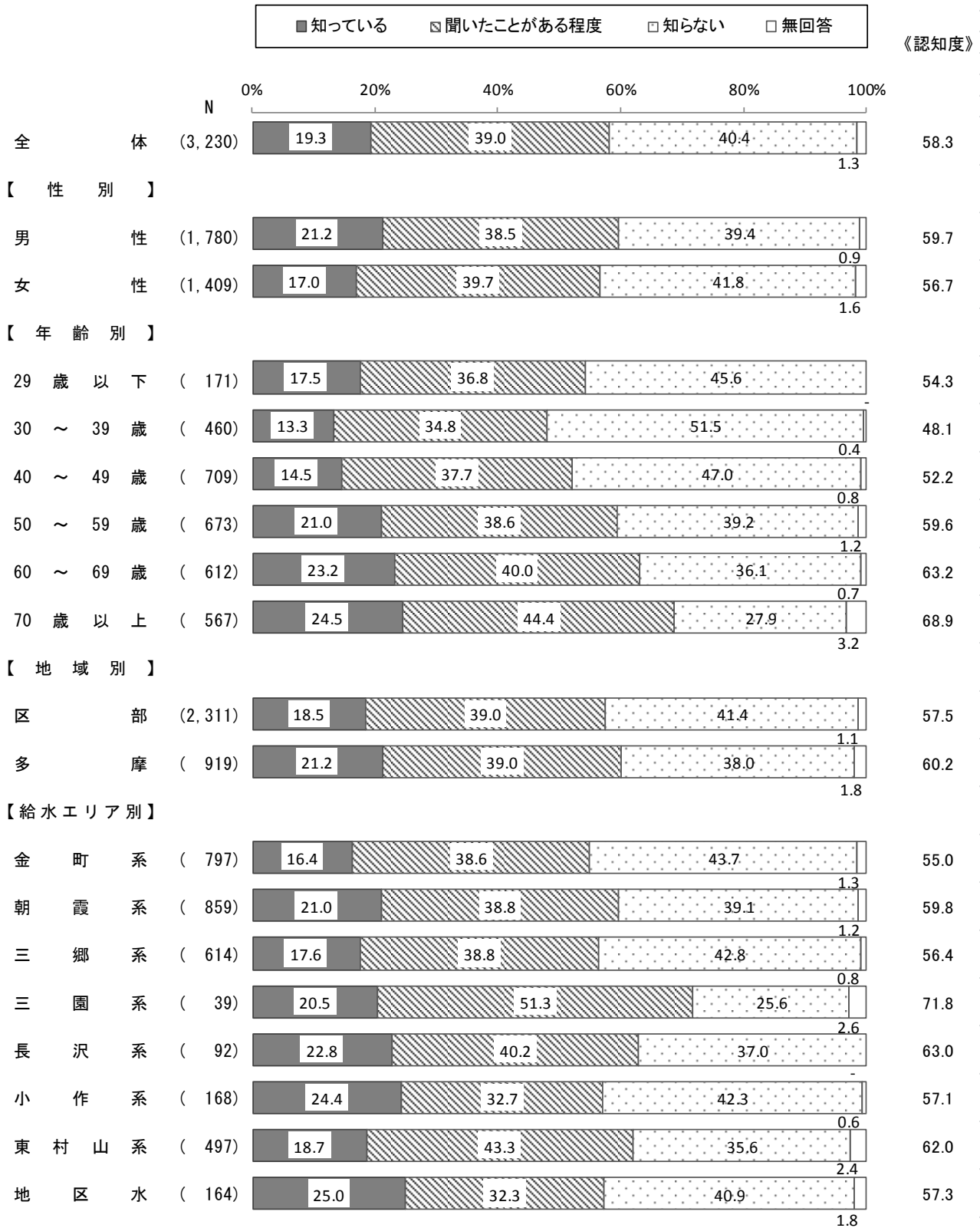


<特徴>

○利用区分別では、《認知度》は、事業所(62.8%)の方が家庭(55.8%)より7.0ポイント高くなっている。



② 「c 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理」(属性別、給水エリア別) <図表-2-3-11>

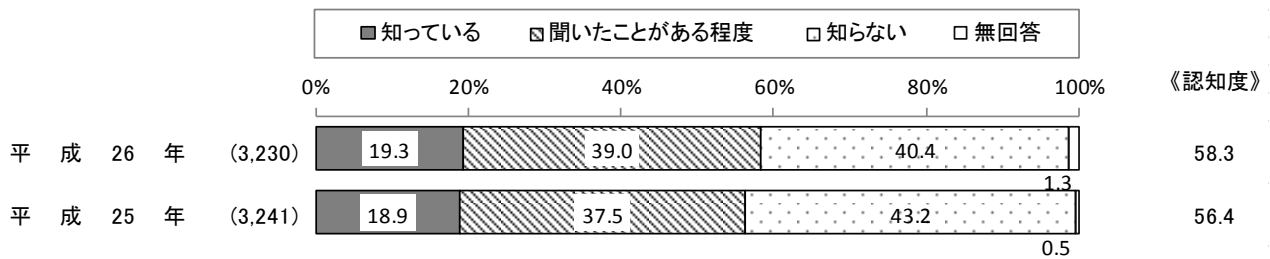


<特徴>

- 年齢別では、《認知度》は、60～69歳 (63.2%)、70歳以上 (68.9%) の高齢層で高くなっている。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系 (71.8%) で最も高く、以下、長沢系 (63.0%)、東村山系 (62.0%) で高くなっている。

③ 「c 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理」(時系列:全体)

〈図表 2-3-12〉

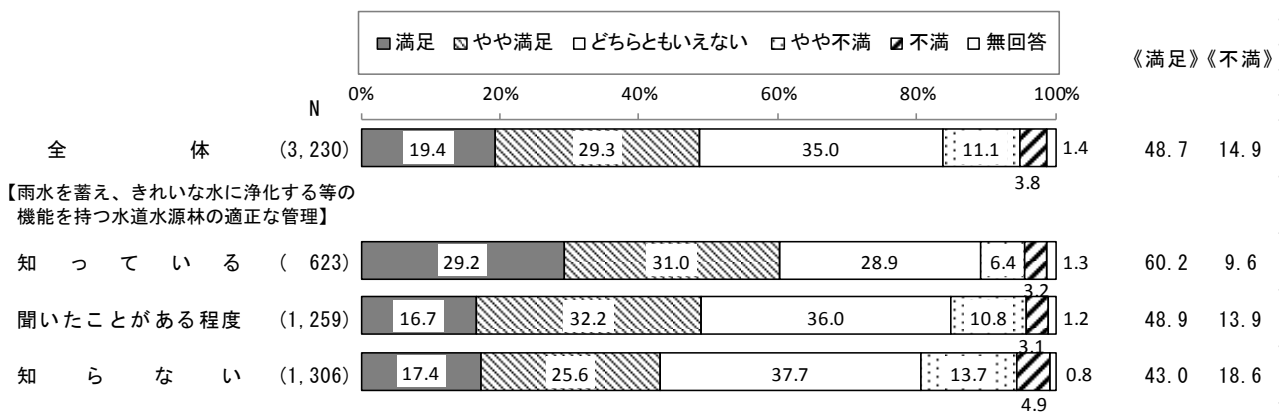


〈特徴〉

○時系列(全体)では、今回調査の《認知度》は58.3%で、平成25年調査(56.4%)とほぼ同レベルである。

[詳細分析]

雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度と飲み水としての水質の満足度〈図表 2-3-13〉



〈特徴〉

○「雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能をもつ水道水源林の適正な管理」の認知度別の「飲み水としての水質」の満足度は、「知っている」が60.2%と「聞いたことがある程度」(48.9%)や「知らない」(43.0%)を上回り、この項目についても、取組を認知している人ほど飲み水としての水質の満足度も高くなっている。

(2) 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無

問6 最近「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことがありますか。

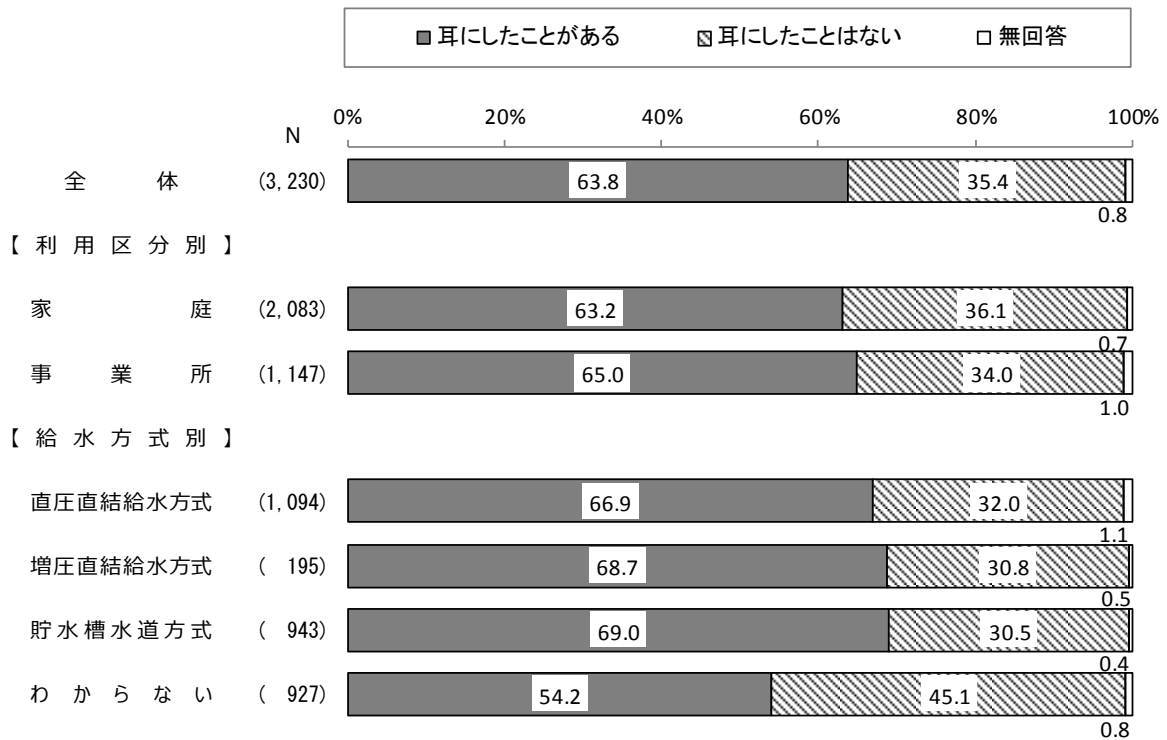
1 耳にしたことがある

2 耳にしたことがない

【調査結果】

① 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことの有無（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-3-14〉

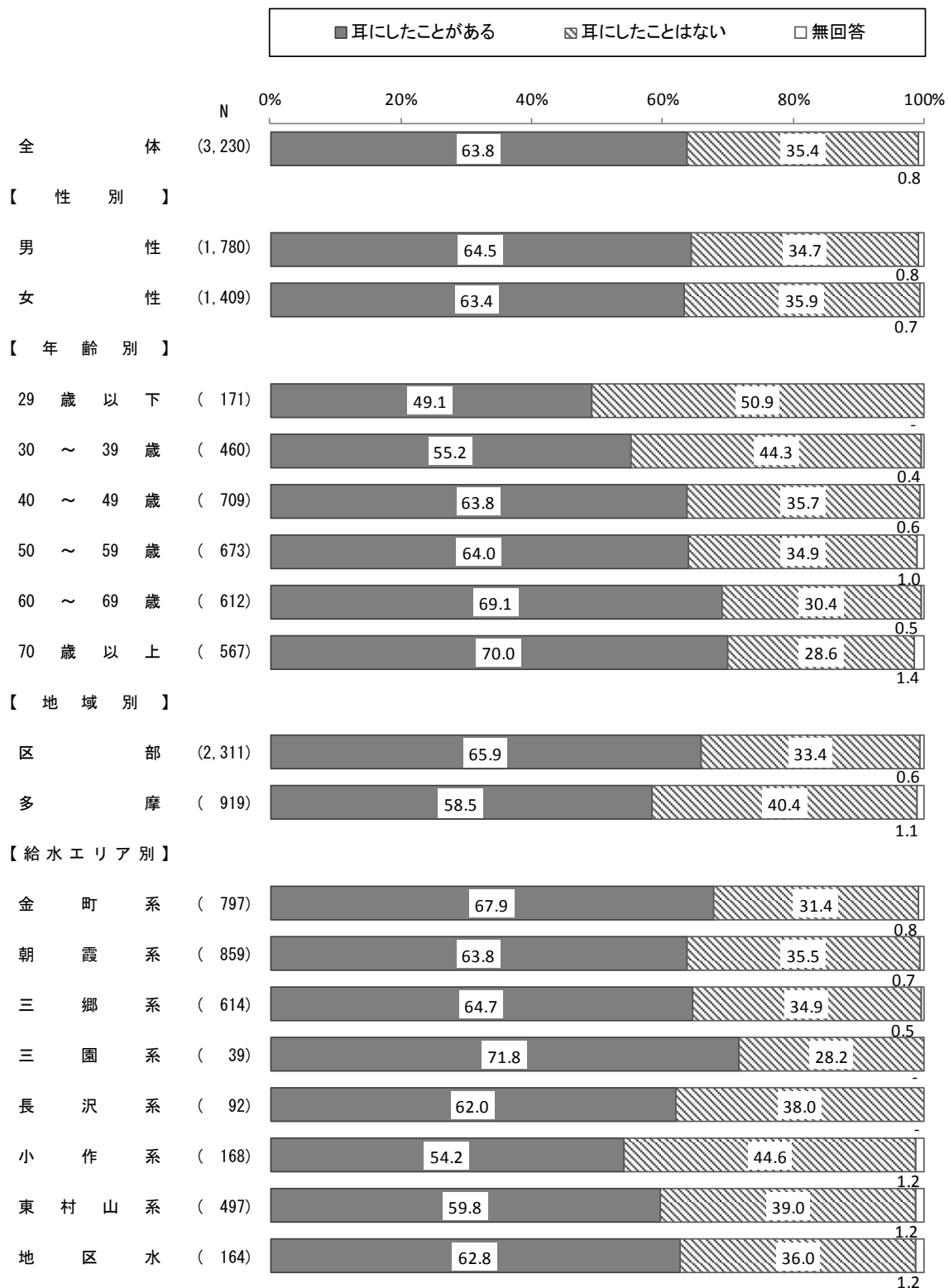


〈特徴〉

○「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことのある人は63.8%と、全体の2/3近くを占める。

② 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことの有無（属性別、給水エリア別）

〈図表 2-3-15〉



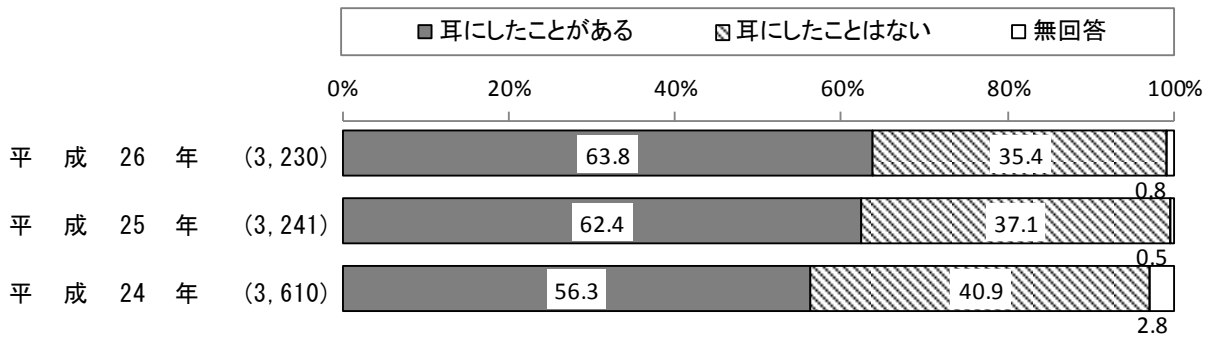
〈特徴〉

○年齢別では、「耳にしたことがある」は、年齢が上がるにつれて割合が高くなり、70歳以上（70.0%）で最も高くなっている。

○給水エリア別では、「耳にしたことがある」は、三園系（71.8%）で最も高く、次いで金町系（67.9%）、三郷系（64.7%）で高い。一方、「耳にしたことはない」は小作系（44.6%）が最も高い。

③ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことの有無（時系列：全体）

〈図表 2-3-16〉

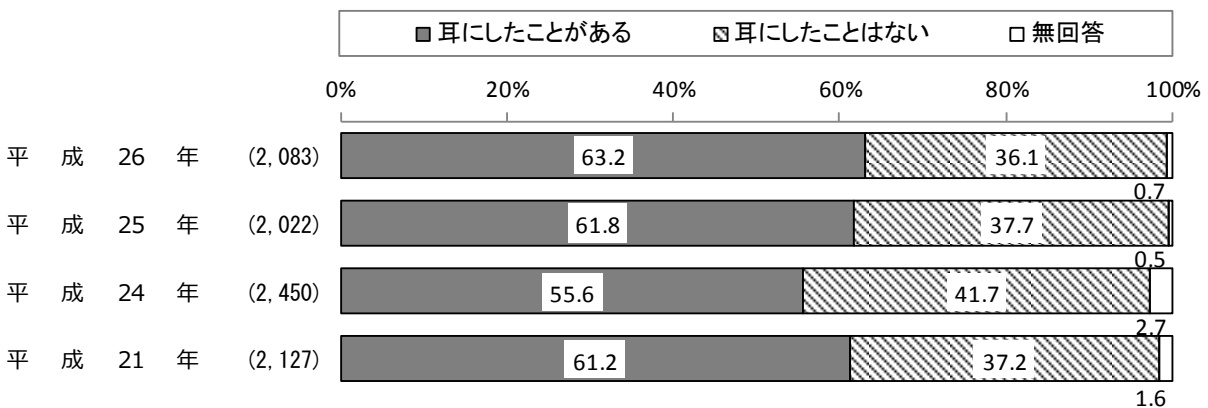


〈特徴〉

○時系列(全体)では、「耳にしたことがある」が、今回の調査(63.8%)では平成25年度調査(62.4%)を若干上回っている。

④ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことの有無（時系列：家庭のみ）

〈図表 2-3-17〉



〈特徴〉

○時系列(家庭のみ)では、「耳にしたことがある」が、今回の調査(63.2%)では平成25年度調査(61.8%)を若干上回っている。